

## 運用実績

基準価額

52,352円

前月末比

▲246円

純資産総額

43.66億円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

ファンド設定日：2006年7月31日

## 基準価額等の推移



※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。

※税引前分配金再投資基準価額は、本ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。

※当ファンドの設定日前日を10,000として指数化しています。

## 資産構成（単位：百万円）

ファンド	金額	比率
マザーファンド	4,382	100.4%
現金等	-16	-0.4%

マザーファンド	金額	比率
国内株式	45,785	96.9%
現金等	1,475	3.1%

※本ファンドは、中小型割安成長株・マザーファンドを通じて実質的に株式に投資しています。

※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

## 期間収益率

	設定来	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	5年
ファンド	423.52%	-0.47%	-5.02%	-4.16%	4.83%	1.76%	38.59%

※期間収益率は、本ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。

## 収益分配金（税引前）推移

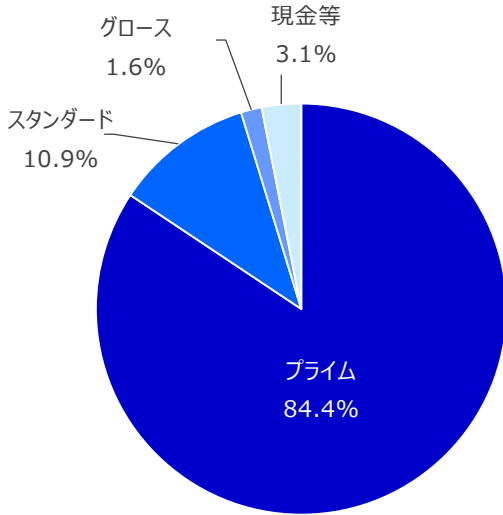
決算期	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期	設定来累計
決算日	2020/7/22	2021/7/26	2022/7/22	2023/7/24	2024/7/22	
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円

※収益分配金は1口当たりの金額です。

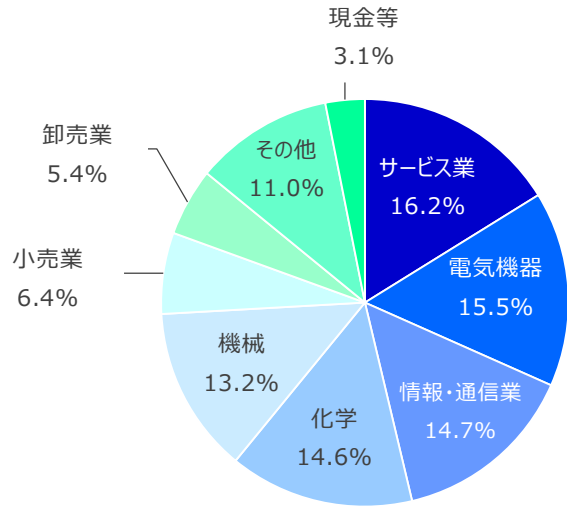
※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の水準を示唆・保証するものではありません。

マザーファンドの状況

市場別組入比率



業種別組入比率



※組入比率はマザーファンドの純資産総額比。  
 ※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

組入上位10銘柄

	証券コード	銘柄名	市場区分	業種	比率
1	6670	M C J	スタンダード	電気機器	3.8%
2	4768	大塚商会	プライム	情報・通信業	3.6%
3	7874	レック	プライム	化学	3.5%
4	7917	藤森工業	プライム	化学	3.5%
5	7518	ネットワンシステムズ	プライム	情報・通信業	3.4%
6	7581	サイゼリヤ	プライム	小売業	3.3%
7	7483	ドウシシャ	プライム	卸売業	3.2%
8	9757	船井総研ホールディングス	プライム	サービス業	2.9%
9	2326	デジタルアーツ	プライム	情報・通信業	2.9%
10	4975	J C U	プライム	化学	2.8%

組入銘柄数

50銘柄

※組入比率はマザーファンドの純資産総額比。  
 ※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。  
 ※本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行っているため、マザーファンドの運用状況を表示しています。

## 市場動向及び企業動向等

※企業調査概況は、本ファンドのマザーファンドに助言しているエンジェルジャパン・アセットマネジメントからのコメントです。

※ご紹介する企業はファンドのコンセプトをご理解いただくためのものであり、個別企業の推奨をする目的ではありません。

### 当月の市場動向

9月の国内株市場は、日経平均株価で前半ピークから3,800円（約10%）近く下げ、後半にかけて前半の下げ幅以上に上昇しましたが、最終日に石破新政権への警戒感から大きく下げ、月間ではマイナスとなりました。

月初、2日の日経平均株価は、前週末の米国株市場でN Yダウが史上最高値を連日で更新、外国為替市場でもドルが買われ円安方向に振れたことから、国内市場も買い優勢で、節目の39,000円台を回復しました。その後は、戻り売りに押される中、米ISM製造業景況感指数が市場予想を下回ったことで、米半導体大手エヌビディアを筆頭に半導体関連株が売られ、国内株式市場でも半導体関連株への大口の売りが入り、為替が円高ドル安に振れたことで輸出関連株にも売りがかさみ、円高にリンクさせた先物主導の売り仕掛けなども加わり、11日には7営業日連続安となり、35,200円台まで大きく値を下げました。12日からは、下げ過ぎの反動で、空売り筋の買い戻しやリバウンドを見込んだ押し目買いが入り、19日には、前日の米連邦公開市場委員会（FOMC）で4年半ぶりの利下げが決められた後から一転、米長期金利が上昇し、急速に円安方向に押し戻され、大型株への買いが集中し、37,000円台を回復しました。月末にかけては、先物主導でさらに買いが進む中、27日の自民党総裁選で、低金利政策の維持と積極財政を主張していた高市経済安全保障相が第1回投票で最多得票となり、月間最高値水準の39,800円台まで大きく上昇しましたが、決選投票で市場予想に反して石破新総裁の誕生となった直後から時間外で大幅下落、為替も大幅円高が進み、休日明けの30日に37,919.55円で終わりました。

大型株では、中国の景気刺激策を受けて資生堂、業績及び配当予想を上方修正した日本取引所グループ、DX関連での成長シナリオが示された富士通などが上昇しました。一方で、新薬候補の治験解析結果を嫌気された第一三共、米半導体株安や米系証券の目標株価引き下げからルネサスエレクトロニクス、インテルの設備投資を懸念して国内証券が投資判断格下げしたレーザーテックなどの下落が目立ちました。

東証33業種別では、繊維製品、空運業、倉庫・運輸関連業が上昇し、医薬品、鉱業、証券・商品先物取引業などがマイナスとなりました。この結果、当月の指数の動きはTOPIXが▲2.46%、日経平均株価▲1.88%、東証グロース市場250種指数（旧東証マザーズ指数）が▲2.45%となりました。

### 企業調査概況

最近の面談では「生成AIは幻滅期に差し掛かっている」という話を聞くことが増えています。当初は熱狂的なブームとなった生成AIですが、個人の使いこなし方に大きな差があり、組織的に使うのが難しいと実感している経営者が多いようです。この“幻滅期”というのはIT分野に関する調査を手掛ける「ガートナー」が発表している『ハイブ・サイクル』で使われる表現です。これによると、新技術を“黎明期”、“ピーク期”、“幻滅期”、“啓発期”、“安定期”の5段階に分類し、登場時に関心が高まり、期待と誇張（ハイブ）がピークに達し、やがて失望を経て、最終的に重要性や役割が理解されて進化するまでの共通パターンが示されています。8月に発表された2024年版を見ますと、確かに「生成AI」は“ピーク期”の後半に位置しており、幻滅期に差し掛かっているといえます。ちなみに“幻滅期”には「Web3」、「NFT」、「メタバース」、「量子コンピューティング」等、“啓発期”には「人工知能（AI）」、「ブロックチェーン」、「モノのインターネット（IoT）」等が入っています。細かい部分で賛否両論はあるでしょうが、新技術は革新的であるがゆえに、多くの人々が使いこなすためには時間と労力が必要ということでしょう。ただし、その労力を惜しまず再成長につなげている企業も数多くあります。先日面談させて頂いた企業は既に“幻滅期”を経た技術を扱っていますが、着実な成長を実現しています。そのカギになったのは“伴走”でした。先端技術を使いこなせるほどITリテラシーの高い企業は少ないため、同社社員が企業に寄り添って根気強くサポートすることで、業務に定着させることができたようです。手間のかかる作業ですが、最後は人の支援が必要という点は興味深い事実といえます。

さらに、“株価”という観点で同サイクルを見て感じられるのは、終わったと思われるテーマでも復活の芽はあるということです。過度な期待が幻滅に変わる局面では株価は大きく下落し、大半の投資家はそこで興味を失うものです。しかし有望な企業を根気強く調査し続けていけば、いずれ成長軌道に戻ってくる可能性もあります。当ファンドとしても短期志向にならないことを肝に銘じ、成長企業を厳選していきたいと思えます。

## 組入銘柄のご紹介

※本ファンドのマザーファンドに助言しているエンジェルジャパン・アセットマネジメントからのコメントです。

※ご紹介する企業はファンドのコンセプトをご理解いただくためのものであり、個別企業の推奨をする目的ではありません。

### 組入銘柄のご紹介 ～レック（7874）～

今月は、日用品雑貨メーカーとして、ユニークな製品をリーズナブルな価格で提供することで成長を遂げている「レック」をご紹介します。同社は、100円ショップ、ドラッグストア、ホームセンター、専門店など向けに、消耗品からキッチン用品、清掃用品、洗濯用品、浴用用品、収納用品、キャラクター商品、化粧品、まで多種多様な家庭用品を開発・製造・販売しています。特に100円ショップ向けに強みがあり、2024年3月期の売上では、大手100円ショップ2社向け売上が全体の44%を占めています。100円ショップ向け商品は、低価格のなかで利益を確保する必要があるため、製品の工夫と、コスト効率の高い生産体制が欠かせません。同社では、国内・海外の自社工場に加えて、中国などの製造委託先を有効利用してコスト競争力を高めています。

代表商品である清掃グッズの『激落ちくん』シリーズは、様々な形状のものや、セスキやクエン酸を含んだ機能型もあります。さらにマイクロファイバーやアルカリ電解水などの清掃グッズにも同様のブランド名を使うことで消費者への訴求を強めています。この他にも、おしりふき、便座シート、カーペットクリーナー、折りたたみハンガーなど、数々のヒット商品を生み出してきました。グッドデザイン賞も多数受賞しており、強い開発力も有しています。

近年では、他社のブランドを譲り受けて再生する事業にも注力しており、2018年には大手家庭用品メーカーから殺虫剤で知名度の高い『バルサン』ブランドの事業譲渡を受けました。買収後、顧客の意見を反映して使い難い点を改善し、パッケージなども変更して新製品を多数上市しています。最近では、ドリンク剤の『グロモント』及び『グロンサン』も同様に譲り受けており、今後強化していく方針です。

創業以来の経営理念である「お客様が感動する製品を一生懸命開発する」に基づき、顧客ニーズをとらえた製品開発を進めることで持続的な成長を目指しています。

### 組入銘柄のご紹介 ～ビーウィズ（9216）～

今月は、様々な企業の顧客対応や事務処理を外部委託先として請け負いながら、デジタル技術の活用で独自の事業展開を図る「ビーウィズ」をご紹介します。電力・ガス会社や通信事業者、通販事業者などは多くの消費者と接点を持つため、顧客対応業務を自社で行うだけでなく外部に委託するのが一般的です。「ビーウィズ」も外部委託先の1つであり、同社が運営するコンタクトセンター（以下CC）は専門の拠点と人材を配置し、電話だけでなくメールやウェブも活用して顧客対応を行っています。また、事務処理など顧客企業の業務を代行するBPOも同社のサービスであり、例えば自動車ローンの受付に関する複雑な事務処理の代行、家電メーカーにおける修理部品の受注業務の代行などが事例として挙げられます。

上記のようなCC・BPO業務を手掛ける事業者は数多くありますが、「ビーウィズ」はM&A（企業の買収・合併）によって、業務用の電話回線構築に欠かせないPBX（構内交換機）をソフトウェアで実現する『オムニアリンク』を自前のシステムとして取り込むことに成功しました。『オムニアリンク』は電話の受信・発信や保留・転送といった基本機能に加えて、会話内容を文字にしてパソコンのモニターに表示したり、AI（人工知能）が会話内容に合わせて回答候補を表示したり、経験の浅い社員の業務を管理者が離れた席から支援したり、在宅勤務でも業務を可能にしたりと、数々の機能を有しています。自らがCC・BPO事業者であり、その社員の声をシステムの改善に活かすことで『オムニアリンク』は進化を遂げてきました。そして、現在は『オムニアリンク』の外販にも注力しており、他のCC・BPO事業者とは一線を画する成長事業となっています。自社システムを活用した既存サービスの効率化と、そのシステムの外販が、同社の成長の原動力となっています。

追加型投信／国内／株式

## ファンドの目的・特色

### ファンドの目的

本ファンドは、中小型割安成長株・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

### ファンドの特色

- 株価が下落した銘柄から財務安定性に優れ、業績も安定しており、わが国の経済社会に貢献すると考えられる企業の株式に厳選投資します。
- エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社より投資に関する助言を受けて運用します。

#### 「エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の概要」

設立	2001年12月4日 関東財務局長（金商）第641号
経営理念	「企業家精神を応援し続け、経済社会の活性化に貢献する」という明快な理念の元、革新的な成長企業などへの投資に対する助言
特徴	①革新的な成長企業（新規株式公開企業等を含む）を中心とした調査・分析・投資助言に特化 ②徹底した個別直接面談調査に基づく厳選投資 ③投資リスク軽減のため、投資後も定期的な企業訪問を行い、充実した調査・分析を継続

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

本ファンドは、マザーファンドを通じて主に国内株式に投資を行います。株式等値動きのある証券を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に投資する中小型株式等の価格変動は、株式市場全体の平均に比べて大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者に帰属します。尚、投資信託は預貯金と異なります。

### 主な変動要因

価格変動リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して変動します。本ファンドは株式の価格が変動した場合、基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。
流動性リスク	株式を売却あるいは取得しようとする際に、十分な流動性の下での取引を行えず、市場実勢から期待される価格で売買できない可能性があります。この場合、基準価額は影響を受け、損失を被ることがあります。
信用リスク	投資した企業や取引先等の経営・財務状況が悪化するまたは悪化が予想される場合等により、株式の価格が下落した場合には基準価額は影響を受け損失を被ることがあります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

### その他の留意点

- ・本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・本ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待される価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- ・投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・本ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。当該運用方式には運用の効率性等の利点がありますが、投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じた場合などには、本ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。

### リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。流動性リスクの管理においては、委託会社が規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

## お申込みメモ

購入単位	1口以上1口単位として販売会社が定める単位とします。(当初元本1口 = 10,000円)
購入価額	購入申込受付日の基準価額となります。
購入代金	原則として、購入申込受付日から起算して5営業日目までに販売会社にお支払いください。
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位とします。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額となります。 換金手数料はかかりません。
換金代金	換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いいたします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受けた分を当日のお申込み分とします。 (申込締切時間は2024年11月5日より、原則として、午後3時30分までとなる予定です。) ※受付時間は販売会社によって異なることでもありますのでご注意ください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込受付の中止 及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情等があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、及び既に受けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	無期限(設定日：2006年7月31日)
繰上償還	受益権の口数が10万口を下回るようになった場合等には繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年7月22日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。 ※税制が改正された場合には、変更となる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家にご確認されることをお勧めします。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に3.3%（税抜：3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。詳細は販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に0.3%を乗じて得た額とします。

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に年1.87%（税抜：年1.7%）を乗じて得た額とします。 信託報酬は毎日計上され、毎計算期間の最初の6カ月終了日及び毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。 信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率
その他の費用 及び手数料	ファンドの監査費用、有価証券売買時にかかる売買委託手数料、信託事務の処理等に要する諸費用等（有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書、運用報告書等の作成・印刷費用等）が信託財産から差引かれます。これらの費用は、監査費用を除き運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 委託会社、その他関係法人

委託会社	SBI アセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。）
販売会社	※最終頁をご参照ください。（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。）

## 販売会社一覧

金融商品取引業者名	登録番号	加入協会					
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	一般社団法人 日本STO協会	
株式会社SBI証券 <sup>※1</sup>	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第44号	○	○		○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○	○
Jトラストグローバル証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第35号	○				
三田証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第175号	○				
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	○	○
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第633号	○				
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第105号	○			○	
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第61号	○	○	○	○	○
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第131号	○	○		○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第140号	○	○	○	○	○
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第10号	○	○			
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第10号	○	○			
あかつき証券株式会社 <sup>※2</sup>	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第67号	○	○	○		

■販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。

※1 株式会社SBI証券は、日本商品先物取引協会にも加入しております。

※2 あかつき証券株式会社は、2024年10月28日よりお取り扱いを開始する予定です。

## 本資料のご留意点

○本資料は、SBIアセットマネジメントが作成した販売用資料で、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○当ファンドをお申込みの際には、必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。